

三大学連携 課題(1)

アクティブ・ラーニング支援機能に関する 事例共有及び手法開発に関すること

2014年11月27日

お茶の水女子大学図書・情報課

餌取 直子

課題(1)アクティブ・ラーニング支援機能に関する事例共有及び手法開発に関すること

メンバー

千葉大学: 谷

お茶の水女子大学: 森(総括)、酒巻、井上、餌取

横浜国立大学: 水野、久保

目的

- ・アクティブ・ラーニング支援機能に関する三大学の取り組みを共有し、それぞれの大学での実践に活かす。
- ・アクティブ・ラーニングの動向をウォッチ。
- ・最終目標は、汎用性のある手法を開発すること。
(夢は大きく！)

実施したこと

① 2014年6月3日

キックオフミーティング@千葉大

→ 顔合わせ、アクティブラーニングの定義確認、3大学事例紹介、方針決定

② 2014年8月3日

お茶大LALAトレーニング・プログラム第3回「ライティング支援」

→ 早稲田大学アカデミックライティングセンターの教員とチューターによるLALAを対象とした学内トレーニングプログラムに千葉大、横国大の職員が参加

③ 2014年9月11日

学生協働ワークショップ in 東京@お茶大

→ お茶大・東京女子大・早稲田大学が主催するセミオープンなワークショップに千葉大、横国大の職員が参加

関係者として当日の準備も担当してもらった

キックオフミーティングで確認したこと

アクティブ・ラーニングをどう捉えるか？①

「グループワーク」だけではなく、個人で集中して取り組むこともアクティブ・ラーニングである。

世の中にアクティブ・ラーニングの定義は多数あるが...

- 「読解・作文・討論・問題解決活動において分析・総合・評価のような高次思考課題を行う学習スタイル」

山内祐平ほか「ワークショップデザイン論」慶應義塾大学出版会、2013.6

能動的学習：受動的学習

≠動的学習：静的学習

→両方の要素があるのでは？

キックオフミーティングで確認したこと

アクティブ・ラーニングをどう捉えるか？②

- 学修のプロセスは一方向ではない
- 場所は教室だけでも図書館だけでもない



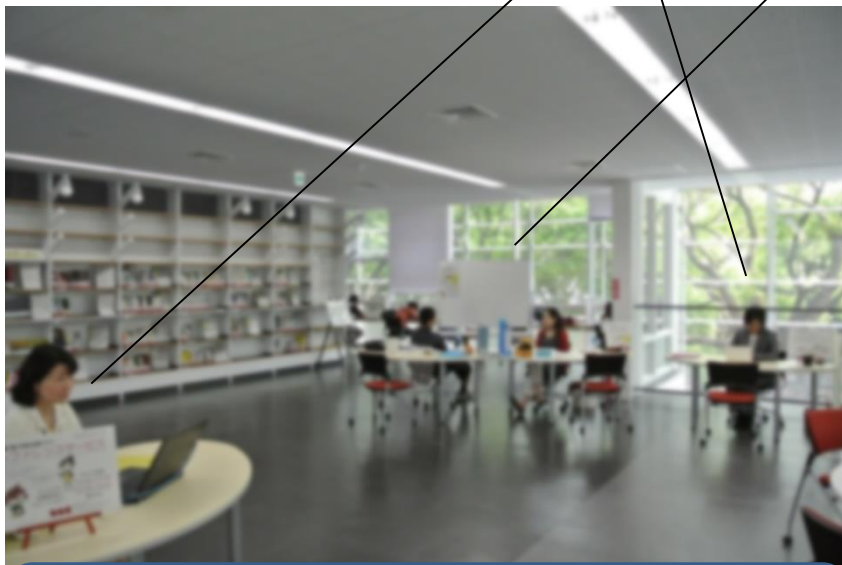
お茶大でアクティブラーニングを実践されている松田先生との対話で気付いたこと。 5

キックオフミーティングで確認したこと

② 三大学の教育・学習支援の事例共有

● 千葉大学: 学習支援デスク

- ALSA-LS(Academic Link Student Assistant-Learning Support)(学習支援担当のSA。千葉大学の大学院生)による「分野別学習相談」、
- 「オフィスアワー@アカデミック・リンク」(教員によるオフィスアワー)、
- 「レファレンスデスク(調べもの相談)」(図書館員によるレファレンス)を開始(2012年～)



3つの学習支援デスクを1つの空間(=学生の学習空間と同じフロア)に配置。



大学院生(ALSA-LS)



図書館員



教員

キックオフミーティングで確認したこと 三大学の教育・学習支援の事例共有

● 横浜国立大学

- ラーニング・アドバイザー(大学院生による学習支援)の制度を開始。(2011年～)
- 2階カウンター前のスペースをグループ学習エリアとして開放(2014年～)



ラーニング・アドバイザー



グループ学習エリアで
教えあう学生



グループ学習エリア

キックオフミーティングで確認したこと 三大学の教育・学習支援の事例共有

● 横浜国立大学

- 語学学習のためのエリアを中央図書館と理工学系研究図書館に整備(2013～)



語学学習リソース活用コーナー



AVエリア



語学学習室
(理工学系研究図書館)

キックオフミーティングで確認したこと 三大学の教育・学習支援の事例共有

● お茶の水女子大学

- LAからLALA (Library Academic Learning Advisor)へ(2014年3月～)
- 1階全体が、オープンなアクティブ・ラーニングスペース



LALAデスク



情報探索講習会を
ラーニング・コモンズで実施



発表の場としても
活用されるキャリアカフェ

LALA (Library Academic Learning Advisor) の枠組

- ★内容: ICTサポートに加え、学習支援を行う
(主に、学部学生のレポート作成のサポートから着手。図書館だけで実施するのは難しいので、関連する先生方や各センター、チームと相談しながら進めている。)
- ★経費: 学内経費
- ★広報: 半年間は試行的位置づけ。10月から本格的な広報開始(教授会でリーフレット配布等)。

- 2014年度メンバー 11名(応募13名)

比較社会専攻 : 5名(後期:5名、前期:0名)

理学専攻 : 3名(後期:1名、前期:2名)

ジェンダー専攻: 3名(後期:2名、前期:1名)

- トレーニング・プログラム

- ・図書館情報探索講習会
- ・お茶大教員による「論文の技法」
- ・早稲田アカデミックライティングセンターによる「ライティング支援」
- ・筑波大学秋のライティング支援連続セミナーに参加

- 授業期間中

	9:00~12:00	12:00~15:00	15:00~18:00
月	理学/後期	比較社会/後期	ジェ/前期
火	比較社会/後期	理学/前期	比較社会/後期
水	ジェ/後期	理学/前期	比較社会/後期
木	比較社会/後期	ジェ/後期	理学/後期
金	ジェ/後期	比較社会/後期	理学/前期



- 授業期間外

	10:00~13:00	13:00~16:00
月	ジェ/後期	比較社会/後期
火	比較社会/後期	理学/前期
水	比較社会/後期	ジェ/前期
木	ジェ/後期	理学/後期
金	理学/前期	ジェ/後期

キックオフミーティングで確認したこと

三大学の教育・学習支援の事例共有④

●事例共有から分かったこと

場のしつらえや人的サポートの内容など、実施内容は三者三様。参考にできるところは大いに参考しあう。

一方で、学習支援には正解はない。その大学のミッションや学生の現状に沿って考える必要がある。

例) 同志社大学のLCではさまざまな人的サービスを受けられる。

→学習支援コーディネーターがICT機器をどう学びに活用するのかを
アドバイス

事例の共有

各自が参加するセミナーから得た情報を共有

本日: 学習・教育支援に関する専門性向上研修会@九州大学
「図書館での学びをデザインするために」

12/11: 同志社大学ラーニングコモンズ見学と人的支援に関する意見交換 & 京都大学図書館機構講演会「大学図書館における自学自修施設の整備と今後の活用 ～ラーニングコモンズの評価と活用の方策～」

現在の課題

● 情報共有の方法

権利関係があり三大学内のみでしか共有できないもの、
心情的に一般公開はしたくないものを、
効率的に、限定した範囲で、安全に情報を共有する方法は
ないだろうか？

現在は、メールベースで各自保存。またはFBグループ内に
アップ。

- 例) ・第3回LALATレーニングプログラムの配付資料
(FBグループに投稿済み)
- ・一般公開するのはちょっと恥ずかしい内部資料
 - ・LALATレーニングプログラムの動画

これからのこと

現在は、事例共有とそれらを自大学の実践に取り入れようとしている最中。

汎用性のある手法開発ができるよう、みなさんの事例（成功例、困っていることなど）を共有し、一緒に考えていきたい。